

牛久：学校周辺に見る自然

第21号 ひたち野うしく小(、ひたち野うしく中)

2020年5月19日発行

＜ 晩春の校庭の植物 ～②樹木(離弁花類) ＞

こんにちは。開校11年目のひたち野うしく小校庭、4月末～5月の植物たち。今回も樹木について、分類の話もまじえて解説します。今回は、離弁花類の樹木を紹介し、花弁が何枚かに分かっている花が離弁花で、離弁花を咲かせる植物が離弁花類です。



アーモンド(左：バラ科)と、花のアップ(右：離弁花、2019.4.11)。

ひたち野うしく小では有名な、アーモンドです。アーモンドはアンズやモモの仲間で、花弁は5枚、ハッキリ分かれていますね。果実が、成長し始めていました。形がおもしろいです。



ハナモモ(左：バラ科)と、花のアップ(右：離弁花、2018.3.22)。

そのアーモンドにくつつくように、そして少し離れたところにもハナモモの木があります。ハナモモは花粉が多く、そばに植えておくと花粉がついて、アーモンドの実もたくさんできるのですよ。



シダレザクラ(左：バラ科)と、花のアップ(右：離弁花、2019.4.11)。

同じバラ科のシダレザクラも、小さな果実がついていました。花は似ていても長い柄があり、アーモンドやハナモモとは違いますね。ウメやアンズ、スモモはどうでしょう？



リンゴ(左：バラ科)と、花のアップ(右：離弁花、2014. 4. 22)。

リンゴの木は、今年は花も葉も少なくなっていました。何とか元気になってほしいです。



イロハモミジ(左：カエデ科)と、花のアップ(右：離弁花で雄花と両性花が雑居する、2018. 4. 10)。

イロハモミジも5枚の花弁をもつ離弁花ですが、花の集まりをよく見ると、雄しべしかない雄花と、雄しべも雌しべもある花(両性花)がまじっています。両性花には、小さな実ができてはじめていますね。



ハナミズキ(左：ミズキ科)と、花のアップ(右：離弁花で総苞の中央にかたまる)。

ハナミズキの赤い花弁に見えるのは「総苞」とよばれる葉の変形したもので、本当の花はその中央にかたまっていきます。白い総苞のものもあり、拡大すると花弁4枚の離弁花であることが分かりますね。



最後に、ツバキ。ツバキはサザンカと同じツバキ科ですが、サザンカの花弁が1枚ずつ散るのに対して、ツバキは花ごとぼとりと落ちます。では、ツバキは合弁花？図鑑を読むとツバキは離弁花類となっていますが、離弁花類から合弁花類に進化する途中段階にあるといえるかもしれません。実際に花を外側から分解し、観察してみましょう。【理科支援員：宮内】

ツバキ(ミズキ科、離弁花?)。